



↑頼もしい決意を語った鈴木さん（左）と山本さん（右）。

看護の道へ進む「新たな決意」

■静岡県中部看護専門学校戴帽式

静岡県中部看護専門学校（焼津市）で5月12日、戴帽式が執り行われました。

戴帽式は、看護職に対する意識を高め、その責任の重さを自覚させるためのものです。

出席した鈴木佳奈絵さん（勝間田区）は「思いやりを持った看護をしたい」と、山本留美さん（波津区）は「患者さまの支えとなる優しい看護師になりたい」と決意を語り、卒業後は「棟原総合病院で働きたい」と地元の地域医療の現場で活躍したいという意気込みも話してくれました。

空港開港1周年を控え地域で祝う

■富士山静岡空港開港1周年記念「牧之原の市」

市観光協会が主催する富士山静岡空港開港1周年記念「牧之原の市」は5月2日から4日間、空港展望広場で開かれました。

会場は、お茶やイチゴといった地場産品の販売テントが設けられ、にぎわいました。特に新茶を取り扱うテントでは、ことしの新茶を飲みたいと思う来場者が多く訪れていました。

また、メインステージでは、市内外からのよさこいグループが開港1周年に花を添える華麗な踊りを披露していました。



↑来場者や空港利用客を前によさこいが披露されました。

次世代に引き継げる用水路が完成

■松本用水路改修工事完了

松本地区の松本用水路の改修工事がこのほど完了し、田植えの季節に向け放流が始まりました。

この用水路は、昭和27年に萩間川から約600㍍上流まで用水管の埋設工事が行われ、くみ上げを開始。設置から57年が経過し、漏水の影響で十分な農業ができないため改修に至りました。施工延長は417㍍で、総工費は約800万円。

畑良和松本水利組合長は「次世代にも農業が円滑にできるように引き継いでいきたい」と話してくれました。



↑安定した用水の放流に孫の百華ちゃんと言ふ畑さん。



静岡牧之原茶を大阪で売り込み

■新茶販売促進キャンペーンin大阪

3月末に発生した凍霜害の影響を受けた茶園への支援策として5月15日、大阪市の近鉄百貨店阿倍野店で新茶販売促進キャンペーンを行いました。

本市出身で「静岡まきのはら大使」の只井保さんが会長を務める茶卸販売店「棟原」と共に、市長と職員が新茶パックの配布や呈茶サービスなどで「静岡牧之原茶」の購入を呼びかけました。

お茶を堪能した来場者は「鮮やかな緑色がきれい」「まろやかで甘みがあっておいしい」などと、牧之原市から届いた新茶を買い求めていました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報室 ☎ (23) 0044 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



農業の面白さを茶摘みで実感

■坂部保育園お茶摘み体験

農事組合法人さかぐちの青年部（大関博丈部長）が主催するお茶摘み体験は4月23日、坂部保育園園児27人を迎えて行われました。

これは、新茶の時季を迎え、地域の基幹産業であるお茶の摘み取り体験を通して、子どもたちに農業の面白さを知ってもらおうと行われたものです。

青年部の人たちに摘み方を教わった園児らは、一様に「お茶摘みって楽しい」と言い、摘んだ茶葉を隣の子と見せ合うなどして夢中で摘んでいました。

その日の同保育園給食には、青年部が事前に摘み取った茶葉が天ぷらにしてだされました。



↑お茶摘みの楽しさに笑顔がこぼれる園児ら。

父親に次ぐ親子2代での受章

■平成22年春の叙勲

公共に対して功労のあった人などを表彰する春の叙勲が政府から発表され、市内から池田詔吾さん（66歳、細江）が瑞宝単光章を受章されました。

池田さんは昭和37年に郵政省に入省。平成13年に郵政事業庁を退庁するまでの38年間余り、主に棟原郵便局で郵便物の集配業務にご尽力されました。

平成8年には、郵便事業優積を東海郵政局長から受けるなど、郵便の運営と発展に顕著な功績を残され、郵政業務功労として受章されました。



↑郵政業務功労として瑞宝単光章を受章した池田さん。



砂上で繰り広げられる優駿の戦い

■第35回さがら草競馬大会

国内唯一の砂浜での競馬大会「第35回さがら草競馬大会」は4月25日、さがらサンビーチで開催されました。

当日は晴天に恵まれ、絶好の行楽日和。約2万8,000人が来場し、目の前で繰り広げられる迫力あるレースを堪能していました。

競走馬は第一線を退いたサラブレットが多く、力強い走りに観客から歓声が上がっていました。

このほか、人間草競馬やボニー体験乗馬、海産物の販売などが行われ、にぎわいました。